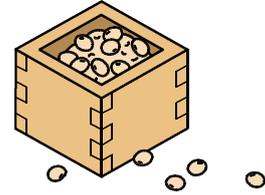


# 敬 愛

甲斐市立敷島中学校  
学校だより 第12号  
平成30年 2月 2日(金)  
発行 長田 靖

## 「一陽来復」



### 厳しい寒さがあるからこそ 春を迎える喜びがある

明日2月3日は節分です。

先日、3年生の学年集会に呼ばれ、話をする機会をいただいたので、こんなことを話しました。

豆まきの<sup>ます</sup>柀に、「一陽来復<sup>いちようらいふく</sup>」と書かれていることがあります。これは、「冬が終わって春がまたやってくるように、しばらく続いた悪事が好転する」という意味だそうです。みなさんも、「冬来たりなば春遠からじ」は聞いたことがあるでしょう。同じような意味の言葉です。

春は始まりや希望を感じさせる季節ですね。しかし、その春を迎える喜びを感じとることができるのは、厳しい冬の寒さを乗り越えたあとだからこそ、と思いませんか。

同じように、辛いことに向き合うから強さが身に付いたり、人のやさしさを感じとったりするのではないのでしょうか。毎日の生活の中で、「悔しい」とか「悲しい」、「寂しい」といった気持ちを味わうことは誰にでもありますね。困難に直面して「もうだめだ…」と思っても、乗り越えられるときが必ず来ます。そして乗り越えたあとには、きっと以前より心の強い、人の痛みのわかる心豊かな人に成長しているものです。

さて、「ブナ」という広葉樹があります。名前くらいは聞いたことがあると思います。

北海道から九州までの広い地域で見られる樹木で、高さは30メートルほどになり、秋には動物たちのエサになる小さなどんぐりのような実を付けます。雪が多く寒さの厳しい地域でも、このブナの木は滅多に倒れることがないと言われています。

なぜ、倒れないのでしょうか…。それは、ブナの木が柔らかいからなのです。柔らかいために、柱など建築の材料には向かず、かつてはスギやヒノキを植えるために伐採されていました。

一方、柔らかくて曲げるのに適していることから、家具の脚や太鼓の胴に使われます。また、ブナの木は温かさもあるので、幹の周りの雪をいち早く溶かし始め、山に豊かな水を蓄えてくれるそうです(少し話はそれますが、世界自然遺産に登録された白神山地に代表されるように、ブナの木は豊かな自然の象徴でもあります)。

柔軟性のある木は、冬の寒さや雪の重さに負けることはありません。

卒業後の進路選択に向けて、いよいよヤマ場ですね。不安や焦り、今まで感じたことのないプレッシャー…。様々なものと闘っていることなのでしょう。でも冬の寒さと同じで、誰もここを避けては通れません。ただ、それは今だけ、今だからこそ。自分に与えられた試練だと柔軟に受け止め、ブナの木を見倣って折れることなく毎日を過ごしましょう。

# 文化で、スポーツで 敷島中生は冬も大活躍

## ◇関東中学校ソフトテニス研修大会

◎男子団体3位 男子ソフトテニス部

## ◇教育祭県下小中学校書き初め大会

◎県特選 1年生：輿石さん、北原さん、立澤さん、飯沼さん

2年生：厚芝さん、三井さん、関さん

3年生：横森さん、浅川さん、高見澤さん、藤沢さん

○中巨摩入選 1年生：浅川さん、高見澤さん、長田さん、大木さん、内藤さん、吉岡さん

2年生：櫻井さん、永田さん、高橋さん、深澤さん、川阪さん、辻さん、

徳井さん、中野さん、佐藤さん

3年生：吉田さん、長田さん、井口さん、小林さん、中村さん、廣田さん



## ◇県吹奏楽コンクール新人戦

◎金賞 吹奏楽部

## ◇県バスケットボール1年生大会

◎優勝 女子バスケット部

## ◇県ジュニアバレーボール大会

◎中学生男子3位 男子バレー部

## ◇県バスケットボール交流大会

◎男子Cパート優勝 男子バスケット部

◎女子Aパート優勝 女子バスケット部

☆これからの予定

### ◇2月3日(土) 西関東アツサグブルコンテスト♪

県代表として、「管楽八重奏」が出演

### ◇2月4日(日) 山梨県新人駅伝大会

・学校対抗の部：男女各1チームが参加

・部活対抗の部：ソフトボール部が参加

### ◇2月25日(日) 甲斐梅の里加スカトリ-大会

・47名の生徒が参加予定

# 小中連携教育推進事業成果発表会

1月24日(水)の午後、敷島総合文化会館で2年間の研究成果を発表しました。

これは平成28年から2か年の計画で、甲斐市から「小中連携教育」について研究するようにと指定をいただき、取り組んできたことの成果発表です。敷島地区の4小中学校の全教職員が「学習指導」と「道徳教育」、「児童生徒交流」の三部会に分かれて所属し、「子どもたちの豊かな育ちと学びを支える」をテーマに、小中9年間を見通した指導はどうあるべきかを研究してきました。研究を中心となって推進したのは、本校の研究主任である坂本誠一教諭と事務局を担当した立川武教頭です。



「中1ギャップ」ということがよく語られます。これは小学生から中学1年生になったとき、学習や生活の変化になじめいことや、いじめなど問題行動が増加したりするという現象を指して言われます。また、ここまで極端ではなくても、小学校との違いに上手に対応ができなくて、困り感を抱えるケースは珍しいことではありません。

今回の小中連携の取組は、様々な角度から、校種間のスムーズなつながりを意識したものです。6年生が中学校に対して感じている「疑問」や「不安」の解消に役立つものと自負しています。

なお、この4月に本校に入学する生徒は159（男子76，女子83）名の予定です。新入生と保護者を対象とした学校説明会を，9日（金）に開催致します。